

+幸せを探すあなたへ

世の中を変える **ビジネス** 人間を生かす **福音**

世の中を変えるビジネス 経済週刊誌であるエコノミスト 2008年12月号を見ると、蚊帳でマラリアの恐怖からアフリカを救う日本の住友化学の「世の中を変えるビジネス」についての話が出ています。2005年1月世界各国の著名な政治家、経営者、学者、ジャーナリストなどがスイスで開かれた世界経済フォーラム年次総会「タボス会議」に集まりました。ビル・ゲイツ前MS会長、タンザニア大統領など千個余りのグローバル企業が参加して、後進国の貧困問題解決する方案を議論している途中で、アメリカの有名な女優シャロン・ストーンがすくっと立ち上がり、「私が1万ドルを寄付します。このお金でアフリカの人々のためにマラリアを予防する蚊帳を買ってください。寄付に参加する方は立ち上がってください」とわずか何分かで、100万ドルを超える寄付金が集まりました。そのお金で購入した蚊帳が日本の住友化学で開発した「オリセット・ネット(Olyset Net)」でした。アフリカの現地では、政府や国連児童基金(UNICEF)などが配る「オリセット・ネット」をもらうために長蛇の列ができるということです。それこそ「救いの製品」です。そして、収益金の一部は、またアフリカの学校や給食設備を作る建設費用にし、現地工場設立を通して現地人の雇用を創出し、国の経済にも助けをあたえる再投資をしているということです。この「マラリアの蚊帳」を通じて、社会貢献と利益実現を同時に成し遂げた日本の住友化学の例が「世の中を変えるビジネス」の典型的な姿だとエコノミストは紹介しています。1590年、蘇我理右衛門(そが・りえもん)によって創業された住友会社は、400年を超える歴史を自慢する日本の最長寿企業の中の一つです。現在MIT大学のスローン経営大学院組織学習センターの理事であるゼウス

(Arie de Geus)は、長生きする企業のいくつかの特徴を提示する中で、著しい特徴が、人を生かす社会的責任と共同体意識が強く、現実に留まらずに絶えず潜在力を発揮するようにする川と同じ会社だと指摘しました。21世紀には、生かす産業が大勢になると言われています。

人間を生かす福音 それなら人間を生かす真の道は何でしょうか。キリスト教で話す救いは、人間自らでは解決できない問題から解放されることです。過去のすべての罪と罪過、生年月日による運命、運勢から解放されることです。また現在、起きている理解できない問題、繰り返す個人と家庭の苦しみの問題が解決されることです。そして、神様の子どもになって、この世を離れる日、永遠な天国へ行く未来(来世)問題が解決されることです。その道がまさにイエス・キリストであると聖書はあかししています。イエス・キリストの十字架の死と復活は、人間のすべての運命と呪いとサタンの権威をうち破り、人間のすべての問題を解決したことを確証する地上で最大のうれしいニュース(福音)です。このイエス・キリストを私の救い主として信じて受け入れることが、神様の子どもになって永遠に生きる道であることを聖書は明らかに知らせています。福音はあなたの人生を永遠な幸せといのちに導くために神様がくださった贈り物です。

「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです」(ヨハネの福音書 10:10)



重職者伝道企画チーム 今、現場では...

花より ?

花男シンドローム 今現場では、とうてい現実で起きることでもない素材を扱ったドラマ一つが、数多くの視聴者の心をとらえています。日本漫画をリメイクした「花より男子」です。オンラインとオフラインを強打しながら、青少年の間で爆発的なシンドロームを起こしている、いわゆる「花男」を知らなければ、対話が通じないほどだと言われています。ドラマ PPL(Products in placement、間接広告マーケティング)企業も、上昇曲線に乗って宣伝するドラマの人気に、幸せな悲鳴をあげて、主人



公たちのヘアスタイル、衣装、アクセサリ、原作である日本漫画が飛ぶように売れているということです。また主人公の F4(Flower 4)のように、イケメンになるための男性ファッション用品、男性化粧品、ファッションの小物が品切れになっています。身長 180 センチ以上であるイケメン・マーケティングを導入する商売まで登場しています。

しかし、このドラマは韓国の現実とあまりにもかけ離れた状況を演出していて、教育現場を深刻にわい曲させていて、露骨な富の世襲、物質万能主義と両極化、集団の仲間外れ、容貌至上主義をそそのかすという批判が着実に起きてきています。それこそ、エペソ 2 章 2 節にある通り、人々は世の中の風潮に巻きこまれて、何が有益かも分別できないまま陥っていつているのです。

このような暗やみに光を照らすのが現場伝道キャンプです。私個人の生活の中で、イエスがキリストであることと神様の国を祈りを通して味わう人には、必ずその現場に神様のみわざが現れるようになります。こういう人が教会に集まる時、初代教会が味わった聖霊に満たされる働きと、世の中を生かす大きい力を得るようになります。この力を得て、地域全体を生かすために、ピリポが暗やみに陥ってしまったサマリヤの現場に入ったように、多くのたましいが福音を待っている黄金漁場と、すでに暗やみに捕われてしまった死角地帯と、呪いの中で苦しみを受けている災い地帯に入って、福音の光を照らすのが、重職者が味わう現場伝道キャンプです。一つ必ず記憶しなければならないことは、その現場の文化を理解して全体の流れを見ながら、聖霊の導きを受けることが最も重要だという事実です。



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子ども五つの確信

救いの確信

イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15 ~ 16、1ヨハネ 5:10 ~ 13)

祈り答えの確信

神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)

導きの確信

神様は聖霊であなたの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26 ~ 27、箴言 3:5 ~ 6)

赦しの確信

あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(1ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)

勝利の確信

救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31 ~ 37、1ヨハネ 5:4)



神様の子ども毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。それで、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

方法の中の方法

ユダヤ人の力-専門化された子どもの教育 現在、アメリカに住んでいるユダヤ人は650万人程度で、ニューヨークの人口の6人の中の1人はユダヤ系です。特に、ニューヨーク市を中心にするニューヨークメトロ圏には、200万人が集まって住んでいるのですが、ニューヨーク一帯の最も重要な不動産は、ほとんどユダヤ人が所有していると言われています。昨年、ウォールストリート・ジャーナルによれば、現在アイビーリーグ入学生の20%はユダヤ系だということです。ユダヤ人は、普通一学年を終えれば、アルバムのようなものを出すのですが「これから私は何になるのか」と書く欄があって、自分のビジョンを確認して最善を尽くして挑戦するというのです。そして、ユダヤ人の成人式では、親戚が現金でその子のためにお金を集めて、未来への経済基盤を置いてやるのですが、その額が1万ドルを越えたりもすると言われています。ユダヤ人がいる都市ごとに、会堂はもちろん、Jewish Center という施設を作っておいて、子どもたちが公演、運動、文化活動ができるように子ども教育に集中的な投資をすることも必ずしています。ですから、ユダヤ人が政治、経済、文化、学界など、すべての分野にわたって超強大国であるアメリカを動かす主流の中の主流に入るしかなかったのです。

これよりももっと強い方法の中の方法 どんなに人の能力と知恵と組織がすごいといっても、必ず限界はくるようになっていきます。歴史上、一度も非真理が真理に勝ったことはありません。一度も、暗やみが光に勝ったことはありません。一度も、人間の力が福音の力に勝ったことはありません。それで、私たちは神様のみことばを握って、聖霊の導きを受けるべきなのです。聖霊の導きを受ける時、歴史を変える事が行われます。聖霊の導きを受ける一つのチームのゆえに、一地域の総督の運命が変わりました。聖霊の導きを受けるピリポひとりのゆえに、サマリヤの運命が変わって、エチオピアの宦官の運命が変わりました。聖霊に導かれて殉教したステパノひとりの影響力が、パウロを悔い改めさせ、マケドニアとローマを生かす伝道の働きを成し遂げるようになりました。ですから、伝道者の方法の中の方法が、聖霊に導かれることです。

ところで、なぜ失敗の苦しみを味わっているのでしょうか なぜヨーロッパ教会はつぶれはじめ、教会堂が売られ、イスラムに奪われ、韓国教会が倒れる状況を迎えるようになったのでしょうか。なぜ信仰生活をするのに困難が続くのでしょうか。神様のみことばを成し遂げて、たましいを生かす霊的な事実より、肉体的なものにすがっているためです。律法が強くて、罪に定めて戦うことは上手にしても、福音の目で人を理解して受け入れて立てることには、あまりにも弱いのです。それだけではなく、実際に神様の力を信じない不信仰の中に陥っているためです。全能な神様に全て信頼すれば良いのに、実際に問題が発生すれば、信じません。これが、今日、韓国教会と世界教会の問題です。

どのようにすればよいのでしょうか 初代教会は根源的な力(イエスがキリスト、神の国、聖霊の満ちし)を分かっていた。そして、この力を味わう方法を分かっていた。私自身が神様の前に立っているだけでなく、人間関係の問題も神様の前で、教会もやはり神様の前に立っていました。そして、完全福音を中心に、完全福音の方法で、完全福音を伝えるのに人生の焦点を合わせました。だから、空と海と陸が揺り動かされ、すべての国々に宣教の門が開く働きが起きたのでした。他のものを頼る必要はありません。神様の霊的な武器で武装して、24時祈りの祝福を味わうのが最も速い道です。今日、神様が与えられる力を大いに受ける祝福を味わうように願います。

説教_柳光洙牧師, 整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

23日(月)

問題の中で神様のみこころを発見する方法(ピリピ 1:9~10)

問題がきた時、問題に陥らずに、真にすぐれたものを見分けながら福音が宣べ伝えられる方向に問題を活用するのが神様のみこころです。問題には答えがあるように、すべての問題には神様の計画が確かににあることを忘れてはなりません。

24日(火)

神様が与えられたものを味わわなければなりません(1コリント 2:1~12)

神様の前でキリストを通して救われた私自身を見つけて味わい、私の人生を通して神様を証しすることができ、神様が願われる時、私が持っているものを用いることができるならば、これが真の成功者で、神様の恵みを受けた者です。

25日(水)

神様は無能ではありません(使徒 2:41~47)

全能な神様が私とともにおられるという霊的な力を得さえすれば、はてしなく無尽な聖霊の働きが現れるようになります。目に見えない主の使いに守られて、暗やみの勢力は逃げるようになります。この力を味わうのが祈りの奥義です。

26日(木)

次世代がすべきフォーラム(使徒 2:42)

福音の中にいれば、私の人生、事業、未来、教会、学業と成功が保障されます。そして、教会を通してみことばの力を得て、出会いの祝福と、祈りの答えを味わうようになります。この福音のうつわをそろえる時、伝道の実はみのようになります。

27日(金)

友だち作りに失敗して、勉強が大変です(詩 1:1~6)

勉強を回復する最も良い方法は、基礎を補充することです。実力をそろえる方法を見つけて、専門性をそろえることに方向を合わせれば、未来の方向が出てくるようになります。これに従って、自分の機能を世界化することができるように土台にすれば良いのです。

28日(土)

重要なものは大人に預けます(1コリント 3:10~16)

聖霊が私と共におられるから、絶対にほろびることができないという確信を持った人、すべての選択と判断を聖霊の導きに従う人、そして、世界を征服する力が聖霊に満ちたであることを知っている人が成長した信仰の人です。

週間メッセージ

産業宣教	神様の計画を成し遂げる特別キャンプ(使徒 19:9~10)
伝道学	ミッションホーム理解(1コリント 16:19)
核心訓練	教会の中の弟子運動(使徒 5:27~32)
聖日1部	天と海とすべての国々を揺り動かす(ハガイ 2:1~9)
聖日2部	1500年の答えを成し遂げた伝道キャンプ(使徒 8:26~40)

教会に通っていますか

教会に通っていたある人が引っ越しをして、当然、通わなければならない教会だが、決めることができず心が苦しかったが、聖日になったので、ひとまず聖書を持って道を出た。いくつかの教会に行ってみたが、当然、行かななければならない教会だと心から思えなかったし、それでも、すべての教会をショッピングするように歩き回って選択することはイヤだった。しかたなく、道で交通整理をする警察に、どの教会に行けば良いのかと尋ねた。その巡査はゲラゲラ笑いながら、このように答えた。

「ハッハ。教会も通わない者にそれを尋ねてどうするのですか。交通整理して案内するのは、よく教えてあげることができますがね...それでも、あえてひとこと、言うならば、私の前に見える大きい教会は行かないでください。あの人たちは、教会に行っただけで出てくるのか、礼拝をささげて出てくる人々の姿が、とても暗いです。代わりにあの道を右側にまわってまっすぐ行ってみると、十字架がない教会が出てきます。ところが、その教会の人々は、毎週笑って出てくるのを見るから、確かにおもしろい教会なのは間違いのないでしょう。どうせなら、そちらへ行ってはどうですか。私も時間があれば、一度行って見たかったですよ」

人ならば誰でも宗教を持っている。進化論が正しいと言っても、人間に進化したと言われるどの生命体も、宗教を持ったという証拠はない。現存する猿の種類は、人間と同じように直立歩行するが、彼らが集まって宗教の対象物に仕える形態は観察されていない。人間といちばん近い動物はペットだが、それらが宗教的な関心事はあっても、宗教行為をするのは期待できない。人間は霊と肉を持った特別な存在で、肉だけが人間だという論理の下で進化論は発展してきたが、たましいが生成される時点は、事実、人間自体もわからないことだ。とても進化してきたどの時点から人間にたましいが与えられたのかは、議論さえされることがない。それでも、ダーウィン先生は今でも尊敬されている。彼の学問的論証は、



イラスト_ユン・スルギ

当然、尊敬しなければならないが、彼による結果までは尊敬する必要はないと思われる。

肉の人生はよく食べて運動して休めば良いが、人間にある最高の欲求は信仰の欲求だ。神様が必要なというその人も、事実は知らないからであって、神様が造られた地面を足で踏んで、神様が毎日供給して下さるトラック一台分の空気を吸いながら生きていっている。私たちは神様の子どもなので、祈らなくても祝福を味わう。なぜなら、神様の子どもの問題は、お父さんである神様がすべて解決されるためだ。しかし、神様がおじさんになるその人こそ、毎日、毎時間、祈らなければならない。交通渋滞なしに毎日一定の空気が配達されるようにということだ。

人間は万物とは違って、哲学する存在だ。すべての動物は、お腹がすくから戦うが、人間は腹がいっぱいでも戦う。なぜなら、考えるためだ。しかし、真の哲学の終わり、人間のいのちの最高の価値が伝えられる所がまさに神様に礼拝してメッセージを受ける教会なのだ。誰に尋ねてその道を行くのだろうか。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまで連絡してください